

トビウオ通信 (R6 第4号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和5年漁期の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和5年漁期（令和5年8月～令和6年5月）の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業（かけまわし）」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業（2そうびき）」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業（かけまわし）

1隻当り漁獲量は平年を下回り、水揚金額は平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業（かけまわし）37隻の令和5年漁期（令和5年9月1日～令和6年5月31日）の総漁獲量は2,631トン、総水揚金額は15億202万円でした。また、1隻当りの漁獲量（以下、CPUE）は72トンで平年を22%下回り、水揚金額は4,084万円で平年を1%下回りました（過去10年平均：91トン、4,131万円）（図1）。

ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

ソウハチ（地方名：エテガレイ）のCPUEは9.3トン（平年比57%）、ムシガレイ（地方名：ミズガレイ）のCPUEは2.1トン（平年比の78%）、ヒレグロのCPUEは4.0トン（平年比59%）、アカガレイのCPUEは3.4トン（平年比56%）で、4魚種とも平年を下回りました。過去5年間（令和元年～令和5年、以下同様）のCPUEの動向は、ヒレグロは「増加」、それ以外の魚種は「減少」の傾向にあります。

ケンサキイカは低水準が続く、ヤリイカは平年を上回る

ケンサキイカ（地方名：シロイカなど）のCPUEは1.3トン（平年比103%）で、平成5年漁期以降で過去最低となった令和3年漁期（0.3トン）、その次に低かった令和4年漁期（0.6トン）は上回ったものの、依然として低い水準が続いています。ヤリイカのCPUEは3.3トン（平年比119%）、スルメイカのCPUEは2.7トン（平年比119%）で、ともに平年を上回りました。

キダイ、アカムツとも平年並み

キダイ（地方名：レンコ）のCPUEは4.6トン（平年比99%）、ニギス（地方名：トンコロ、オキギスなど）のCPUEは7.0トン（平年比99%）、アカムツ（地方名：ノドグロ）のCPUEは3.5トン（平年比90%）でいずれも平年並み、アナゴ・ハモ類のCPUEは3.9トン（平年比63%）で平年を下回りました。過去5年間のCPUEの動向は、キダイ、ニギスは「増加」、アカムツ、アナゴ・ハモ類は「減少」の傾向にあります。

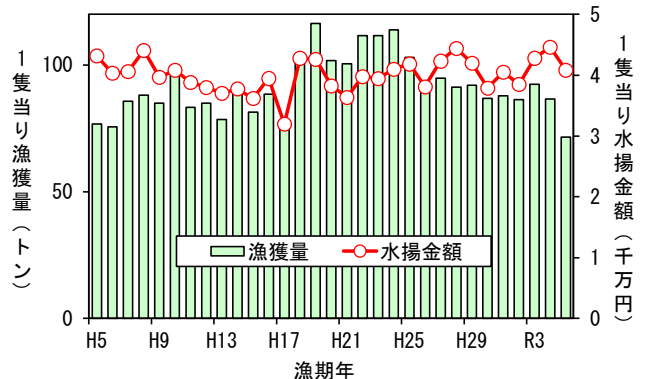


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の経年変化

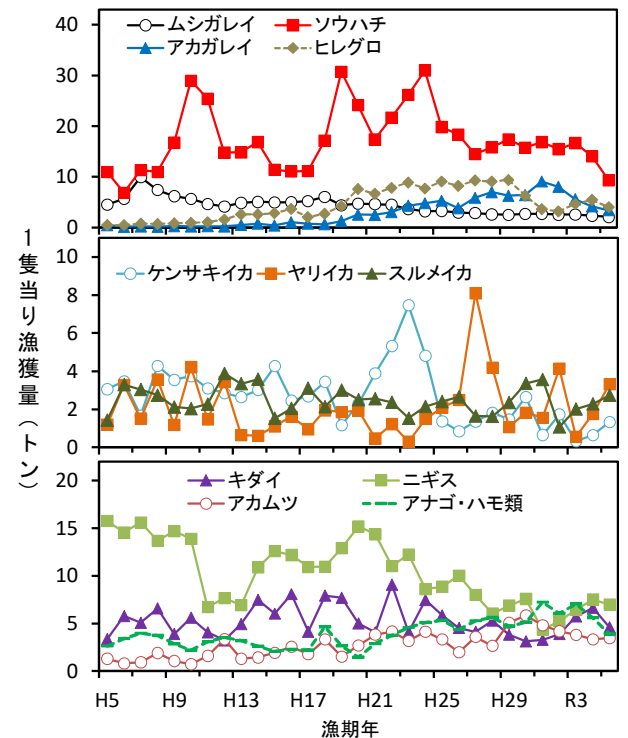


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平年は、過去10年〔平成25年漁期～令和4年漁期〕の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。
- ☞ CPUEの動向は、当年を含む過去5年間での増減率が5%を超える場合は「増加」または「減少」とし、5%以内の場合は「横ばい」としています。

沖合底びき網漁業(2そうびき)

1 統当り漁獲量は平年を下回り、水揚金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 4 統）の令和 5 年漁期（令和 5 年 8 月 16 日～令和 6 年 5 月 31 日）の総漁獲量は 2,052 トン、総水揚金額は 16 億 9,763 万円でした。また、1 統当りの漁獲量（以下、CPUE）は 513 トンで平年を 18% 下回り、水揚金額は 4 億 2,441 万円で平年を 27% 上回りました（過去 10 年平均：629 トン、3 億 3,356 万円）（図 3）。

ムシガレイ、ソウハチとも平年を下回る

ムシガレイの CPUE は 18 トン（平年比 36%）で平年を下回り、記録の残る昭和 61 年漁期以降で過去最低値でした。ソウハチの CPUE は 24 トン（平年比 62%）で平年を下回りました。ヤナギムシガレイ（地方名：ササガレイ）の CPUE は 12 トン（平年比 96%）で平年並みでした。過去 5 年間の CPUE の動向は、3 魚種とも「減少」の傾向にあります。

ケンサキイカは平年並み、ヤリイカは低調

ケンサキイカの CPUE は 41 トン（平年比 109%）で平年並みでした。令和元年漁期以降、秋季（9 月～12 月）のケンサキイカ漁は不漁が続きましたが、今漁期は久しぶりに平年を上回る漁況となりました（秋季の CPUE の平年比 146%）。ヤリイカの CPUE は 3.5 トン（平年比 34%）で平年を下回る低調な水揚げでした。

アナゴ類は平年を上回る、アンコウ類は下回る

アナゴ類の CPUE は 60 トン（平年比 135%）で平年を上回り、過去 5 年間の CPUE の動向は「横ばい」傾向にあります。アンコウ類の CPUE は 25 トン（平年比 75%）で平年を下回り、動向は「減少」傾向にあります。

アカムツ・キダイは長期的に高水準、マフグは依然として低調

アカムツの CPUE は 43 トン（平年比 84%）で平年を下回りました。過去 5 年間の CPUE の動向は「減少」傾向ですが、平成 27 年漁期以降の高い水準を維持しています。キダイの CPUE は 81 トン（平年比 104%）で平年並みでしたが、長期的にみると高い水準にあると言えます。マフグの CPUE は 8 トン（平年比 26%）で平年を下回り、平成 30 年漁期以降、低調な水揚げが続いています。

この他、マダイの CPUE は 40 トン（平年比 212%）で平年の 2 倍を上回る好調な漁模様でした。マダラの CPUE は 9 トン（平年比 89%）、マトウダイ（地方名：バトウ）の CPUE は 12 トン（平年比 51%）、スルメイカの CPUE は 10 トン（平年比 36%）、ニギスの CPUE は 2 トン（平年比 23%）で、いずれも平年を下回る漁況でした。

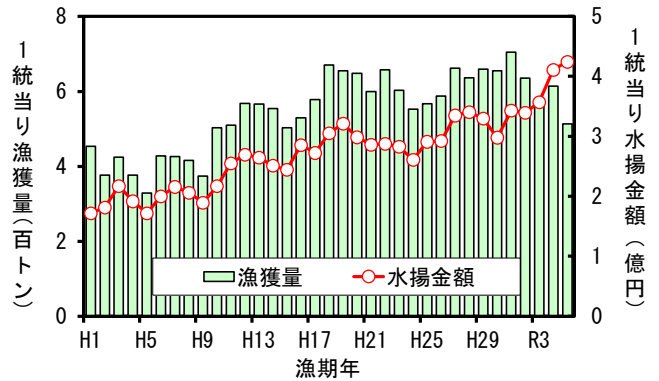


図 3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当り漁獲量・水揚金額の経年変化

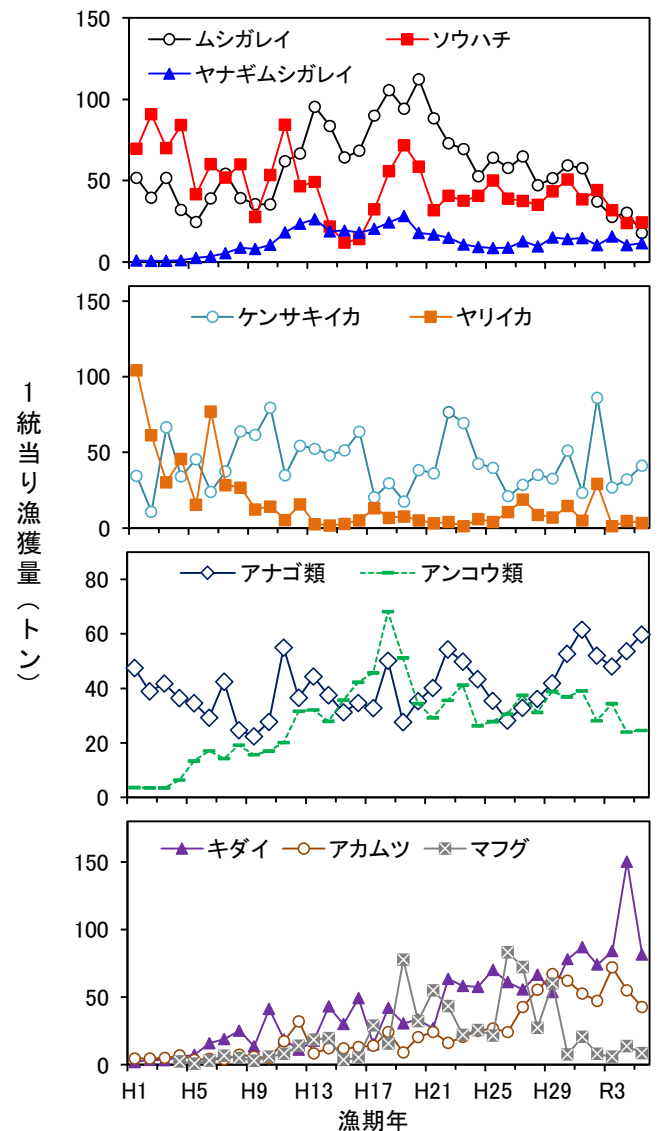


図 4 沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向